

第8回新生匠瑳戦略会議 会議録

開催日時：平成23年8月18日（木）

◆現地確認 午後2時50分～5時10分

- ①堀川浜海水浴場（現在開設中止）
- ②のさか望洋荘
- ③野手浜
- ④野手浜総合グラウンド
- ⑤長谷浜
- ⑥吉崎浜
- ⑦吉崎浜野外活動施設
- ⑧内裏神社

出席委員：（学識経験者）渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、越川八代枝、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子

（6人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃

（団体推薦者）安藤建子、萱森孝雄、越川竹晴、鈴木和彦

（一般公募者）永野亮太、林暁男、八木幸市 （9人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

◆会 議 午後5時20分～7時15分

開催場所：八日市場公民館視聴覚室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川八代枝、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太

（9人／名簿順）

欠席委員：（学識経験者）木村乃

（団体推薦者）安藤建子、越川竹晴、鈴木和彦

（一般公募者）林暁男、八木幸市 （6人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ (渡辺委員長)

(省略)

3 議 事

(1) 海岸地域の振興について

[議長]

議事に入りたいと思いますが、その前に昨日、私の父が蜂にさされまして、市民病院に行きました。まず電話をしたら、事務局長が対応してくれまして、すぐ来てくださいということでした。受付や看護師の対応も、気のせいか大変丁寧なように思われました。

[A委員]

先日、自分の親の関係で紹介状を持って市民病院に行ったところ、午後3時ということで診てもらえるかどうかわからなかったのですが、最終的には診ていただけました。その結果、看護師さんに「検査が必要なので入院してください」と言われ、それは別にいいのですが「付き添いで一晩中いてください」とお願いされたことに疑問を感じました。その日の夜は、職員が2人体制ということでしたので大変だったのかもしれませんが、次の日、別の看護師さんに聞いたら「いや、そんな必要はありません」と言われ、人によってこんなに対応が違うのかと驚きました。

[B委員]

最近、病院も訴えられることが多くて、専用の保険に入っています。もし、入院中に患者がベッドから落ちて骨折し、訴えられた場合は100%病院側が負けます。そういう点ではものすごく神経質になっています。本来、市民病院は完全看護ですので、付き添いをつけてはいけないはずです。ですが、満床ですと47~48人の患者を見なければなりませんので、シフトの関係で2人で対応しなければいけない場合は、目が行き届かないこともあるかもしれません。手術直後や危険性を伴っている場合には、ご家族にいてもらうことはあります。

今は、例えば認知症の患者に対しても、原則的にはベッドなどに拘束をしない方向になってきています。やむを得ない場合には拘束する、ということに対し事前に同意をいただきますが、基本的には看護師が常に目を離さずに対応することになります。点滴等のチューブを抜かないように、または皮膚をかきむしらないように、手指の機能を制限する手袋ぐらいまでは許容範囲だと思いますが、昔やっていたベッドに体を縛り付けるということはまずできません。しかし、ちょっと目を離した隙に、廊下で転んで骨折などをする可能性もあります。旭中央病院などは、状況によって家族に付き添ってもらうこともあります。

[議長]

今、医療訴訟はかなり多いのでしょうか。

[B委員]

かなりではないにしろ、常に2～3件は抱えていると思います。後で話を良く聞いてみると、最初にトラブルが起きたときの現場でのやりとりに問題があったようで、そこでこじれると後は悪くなる一方です。最初の対応をしっかりしておけば、訴訟にまで発展することはまずないと思います。

[議長]

市民病院が良くなることを期待しましょう。

さて、今日は海岸の方をずっと見ていただきました。議事には、「海岸地域の振興について」とありますが、この「振興」という言葉はやめたほうがいいと思います。侵食等の問題が思ったよりも深刻です。

今日、私が見た限りでは、吉崎浜と野栄地区の浜では状況が違いますね。吉崎浜は傾斜護岸やテトラポッドなど、ある程度の対策が進んでいますが、野栄地区の海岸はこれから侵食をどう食い止める対策をするかということが緊急な重要問題だと思います。また、海岸付近の住宅は、生活関連の整備がされていないという問題もあり、振興という言葉は適当ではないと思います。その点をよく考える必要があります。

C委員いかがでしたか。

[C委員]

長谷・吉崎地域の地元住民としては、あまり振興はしてほしくないというのが正直な意見です。というのは、視察のときに海岸道路を通って気づいたと思いますが、周辺にごみが多いのです。土日にサーファーなどが来ると、月曜日はごみだらけになっています。振興も大事なこともかもしれませんが、それによって起こ

る問題も考えるべきだと思います。

野栄地区の浜については、原状回復は難しいと思いますが、生活環境を守るといふことであれば、長谷や吉崎のようにコンクリートを埋めるくらいしか方法がないのかもしれませんが。

[議長]

D委員いかがですか。

[D委員]

自然のことは難しいですね。私も小さい頃はよく堀川浜に出掛けたり、かつてのさか望洋荘にあったプールへ遊びに行ったりしました。

[議長]

この問題は戦略会議の議題ではなく、市が地元の意見を良く聞いて、国・県とのやりとりになるでしょう。

かつて、野栄地区の浜から船が出ていました。その船がなくなるのが1970年代だったと思います。それらをやっていた人たちが、水産問屋のようなものを新たに始めて、そこでもともと船に乗っていた人たちに安く卸して、その人たちが行商に行くという新しいスタイルが始まったのが1970年代以降だと思います。それまでは、おっぺしという人たちが船を出入りさせていました。そういう状況が終わった後に海岸のすぐ近くまで住宅などの開発が行われ、生活関連などが整備されていない状況ができています。

そういう野栄地区の浜と吉崎浜ではまた状況が違ふと思いますし、またC委員のようにあまり振興してほしくないという意見もあります。

E委員いかがですか。

[E委員]

遊びに行くにしても、砂浜が汚れていたりごみが落ちていたりするのでは、なかなか行こうという気になりませんよね。まずは、みんなで浜をきれいにしようと思ってもらふ必要があると思います。

[議長]

よく学校とかでゴミ拾いをやりましたけどね。

[C委員]

長谷浜も、昔は共興小の1～3年生で6月に遠足に行き、ゴミ拾いをして7月の海開きに備えるという行事がありました。それをやっている関係で、学校の先生が真っ先に長谷浜の侵食を見つけて、市へ報告したそうです。

[議長]

私が子どもの頃より 50m～100m近く、いやもっと多く侵食が進んでいると思います。

[A委員]

原状回復は無理で、ヘッドランドなどで侵食対策はしているものの、実際には防ぐことができていません。とすると、今後どうすればいいのでしょうか。

[事務局]

先ほど委員長が言われたように、失った砂浜を取り戻すことについては戦略会議での議題ではないですし、国や県の話聞いていても、元の環境を取り戻すことはまず不可能に近いことだと思います。先ほど委員長から振興という言葉はどうかというお話がありましたが、地元の方の話を伺えば、やはり振興という言葉は適切ではないのかもしれない。海水浴場を造ってくれということが最大の目標ではなく、海岸線が生き活きとし、活性化しているような、そういうイメージを求められているのだと思います。

[議長]

私が聞いている話では、実際に船に乗っていた人たちは、海の流れが以前とは違い、自然が相当変化しているということを肌で感じています。前に聞いた話では、波打ち際のところは西の方へ流れていき、一方、沖の方では東に流れていくので、流れていった先の栗山川の河口や飯岡のテトラポッド周辺には砂がたまっているそうです。また、野栄地区の海底が高くなっているからではないかという話もあります。一度そういう体験などを聞く必要があると思います。

自然の変化を人間の手で食い止めるには、やはりコンクリートを流すくらいしかないのだと思います。ある程度食い止めることをやるべきなのか、それとも自然の変化をそのまま受け入れるのか、そういうことを考えた上での短期的長期的対策が必要だと思います。

こういうことを考え、実際に侵食対策を進めていくと、おそらく前のハマグリの話ではないですが、漁業権とぶつかってきます。そういう部分については、戦略会議では議論できないと思います。

侵食となると災害になるのですか。

[事務局]

災害というよりは、国土保全という中での侵食対策ですよね。国の財政状況により、なかなか要望どおりにはいかないところがあり、ヘッドランドなども中途

半端な状態になっています。しかし、国・県に要望していく必要はあると思います。

[議長]

海岸地域というと、市の担当はどこになりますか。

[事務局]

侵食対策となると建設・土木関係になります。それと産業振興、生活関連整備ということになれば、振興策が難しいということですので、戦略会議で課題や手法を提起していただき、産業振興や環境整備だけに限らず、トータルで海岸地域のあり方について計画を立てていく必要があると思います。

[議長]

今、里山を戦略会議で話題にしていますよね。里山と関わることで、化学肥料が普及する以前は、落ち葉などを集めて農業の堆肥として使いましたが、そういう経済的価値は生み出さないとします。海も同じで、小船で少しやっている人はいますが、かつて海岸が生業の場であった時のような経済的価値を生まないけれども、里海という考えで生まれ育った場所をどう守っていくかということになるとします。

F委員いかがですか。

[F委員]

10～20年という長いスパンで、海岸地域の都市計画マスタープランを作り直すことも一つの方法だと思います。甘受するというよりは、予測をすることはできるので、新たに食い止めるということではなく、将来を予測していく中で少しずつ振興していくのはどうでしょうか。

[議長]

人類は自然に働きかけ、自然を変えて、それを進歩とか言ってきましたが、東日本大震災を経験して、原子力のような人類にコントロールできないことがたくさんあるということがわかりました。海岸の浸食を食い止めるのは難しいことですが、それでも人類の英知を募って何らかの手立てをしなければならないということでしょう。私たちの合理的な欲望だけで開発や振興をするのではなく、F委員がおっしゃるような様々な予測をしながら、長期的なまちづくりのプランを作っていかなければならないと思います。

G委員いかがですか。

[G委員]

現地視察を行ったのさか望洋荘では、グラウンドゴルフの話がありましたが、柏市や松戸市の方まで営業に行っているそうです。バスで迎えに行っ、グラウンドゴルフを楽しんで一泊してもらおうというもので、安いプランではありますが、都市住民に来てもらうためのPRは行っているとのことでした。

後は自転車道路（サイクリングロード）がありますよね。海を見ながら自転車で走れるということに、私は感激しました。道路はどちらから整備されているのですか。

[事務局]

おそらく銚子、旭の方からだと思います。これは全国的な取組みで、計画上では銚子市から和歌山県の方まで自転車道路を造っていくというイメージだったと思います。匝瑳市で整備されたのは最近のことですよね。これがずっと千葉県から西の方へ延びていくという段階ですので、これをどう活用していくかがこれからの課題だと思います。

付帯のメニューとしては、駐車場やトイレを整備することで、都会から車に自転車を積んできて、そこから海岸線を気持ちよく走って、また都会に帰っていくという活用方法はあると思います。

[G委員]

サイクリングロードも、売込みの仕方次第だと思います。最近の観光は、自然の中に癒しを求める時代になってきているので、海岸の素晴らしい自然を残しながら、トイレなどの環境を整備していくのもいいのではないのでしょうか。

昔、海岸で青年会議所主催のイベントを行いました、柏市、松戸市、流山市などの人たちがとても喜んでくれました。地元の人あまりそういう感覚がないのかもしれませんが、海に対する憧れがあるのだと思います。

先日、まちづくり駅前広場（JT跡地）でイベントが行われました。例えば、そこで全国学校給食甲子園で優勝した野栄学校給食センターの優勝したメニューや調理方法を紹介するなど、ただメニューを提供するのではなく、そこに何らかの付加価値をつけるべきだと思います。

[議長]

確かに吉崎浜にサイクリングロードがありましたよね。あれはまた違った活用の仕方があるのだと思いました。吉崎浜には海岸がなく、完全に侵食されてしまっていますが、あのようなかたちになっています。

[B委員]

護岸とサイクリングロードを兼ねたかたちで造っています。

[議長]

やはり、吉崎浜と野栄地区の浜は、分けて考えた方がよさそうですね。野栄の方はまだ海岸がありますが、それがなくなってしまうという意識が強いと思います。

B委員いかがですか。

[B委員]

私は長野出身で、周りは山ばかりでしたので、こちらに来てからはよく海に潜りに行きました。広い海で気持ちの良い風にあたると、ホームシックもふっとびました。時間があるときには九十九里や外房まで足をのびし、気持ちを休めにいきましたので、山の人間からすれば、やはり海に対する憧れみたいなものはあると思います。

侵食で浜がなくなっていくのは寂しいことですが、都会の人からみれば海水浴はできなくても、砂浜があるだけで魅力的に思う人もいると思います。先ほどG委員からも話がありましたが、サイクリングロードと、さらにそこへ付加価値がつけば、訪れる人はけっこういるのではないのでしょうか。

[C委員]

地元の人間としては、小さい頃に泳いだ海が戻ってほしいという気持ちがあります。日本海に面している福井出身の友人が匝瑳市へ遊びに来たときに、太平洋の雄大さに感動していました。砂浜はなくても、太平洋に面している海があるというだけで、ある程度の魅力があるのかもしれない。

[議長]

外から見るとそういう感覚になる人もいると思いますが、地元の人はどう思っているのでしょうか。地域に根差した地元民にはもっと深刻な問題があるのではないのでしょうか。

東日本大震災を経て、漁業、生活、コミュニティーが一つになっている場所がなくなってしまうという、被災地の人たちと同じような一種の恐れみたいなものを持っているのではないのでしょうか。そういうことを抜きにして振興を考えていくのは間違っていると思います。

[A委員]

先ほど委員長から、野栄地区の浜で船を出していたという話がありましたが、

今の私たち農村部の農業と同じですよ。米だけでは生活できないということがはっきり分かっているので、後継者もいません。しょうがなくここに残っている人間はいいですが、若者はここにも仕事がないので、外へ出て行ってしまいます。

飯高檀林についても今はいいですが、これを将来守っていけるのかどうかという不安はあります。これは、山でも海でも同じことだと思います。

[議長]

先ほどF委員から、長期的なまちづくりのプランについての話がありましたが、それは非常に重要なことだと思います。市の懸案事項として、人口減少対策についての問題もありますが、今までは人口が増えるという前提で社会基盤を整備してきた、それにより私たちの生活の質の向上を果たしてきました。

しかし、少子化対策をどんなにうまくやっても、減少を緩やかにするぐらいしかできないと思います。観光振興等で人を一時的に呼び込むというのは地域間競争でのことで、もっと長期的な視点で見れば人口が減っていくことは間違いありません。匝瑳市だけではありませんが、人口が減少していくことを前提としたまちづくりも考えていく必要があると思います。

[F委員]

都市計画的に言うと、拠点や道路を造って、面的に開発をしていくということの逆の発想ですよ。面開発をラインで止めて、そこが無理だったら集約して住み、そこを活性化していきます。こういう逆の発想で考えていかないと、縮小期は無理ですね。

[C委員]

人口減少は農業の自給率と似ていて、どっちも減っていくことが確実なのに、現状を増やそうという議論しかありません。どんなに増えても民主党が言っている50%というのは無理な話で、将来的には10~20%になることは間違いありません。日本の人口も1億人を切ることは確実なのですが、それを前提とした議論があまりないことに疑問を感じます。

[議長]

最初の戦略会議でH委員から「人口が減って何が悪いのか」という話がありました。人口問題も含め、社会構造が大きく変わってきているので、それに合わせた地域計画を作っていかなければなりません。

[E委員]

外国の中には人口が増えている国もあります。日本は自由に土地が買えるので、海外から来た人が日本の土地を購入し、そこに外国人がたくさん住むようになれば、日本人は減るけど人口は減らないのではないかと思います。

[G委員]

札幌、仙台、東京、横浜のような大都市に人口が集中しているので、その反動で田舎が疲弊しているという状況だと思います。かといって、子どもが成長していく過程もありますので、そういうことを踏まえると生活圏をすぐに変えるというのは、なかなか難しいことです。

私の息子は千葉にいますが、このまちの魅力や生活の利便性という部分で、都会と比べると見劣りしてしまうのだと思います。

[A委員]

私たち親は、経済が成長している時代だったので、お金を中心に物事を考えていました。その考えを子どもにも植え付けてしまったのです。だから、今の若い人はお金を追って都会に出て行っています。お金だけの生活ではないということをお伝えしたいのですが、子どもには「自分は好きなことをやっていたのに、子どもにはそれを押し付けるのか」と言われてしまいます。なので、今とても反省していますが、子どもにそれを言われると辛いです。

[B委員]

何事も都会に集中していて、地方に若者の職がないということが問題になっています。そこを国が支援することで、少なくともJターンみたいなかたちで、仕事があるところに行けるような仕組みを整えたいと思います。今の医師不足の現状と似ていますよね。みんな都会へ流れていってしまうので、地方は大変です。

(2) 里山・檀林フォーラムの開催について

[議長]

続いて、里山・檀林フォーラムについての話に入っていきます。

フォーラムに参加してもらった団体として、例えば、豊和地域で活動しているアルカディアの会は、土地を借りて農業体験や里山保全などを通じて、都市住民を呼び込んで活動していますよね。ただ、それだけでは経済的価値を生み出さないので、生業としていくのは難しいと思います。

しかし、そこには環境保全などとともに、それぞれの生きがいを見つけるような人生観があります。里山について議論する場合は、様々な考え方や価値観からアプローチしている点も考えないといけません。

A委員いかがですか。

[A委員]

フォーラムに参加してもらうのはいいのではないですか。こちらに移り住んできて、熱心に活動していますから。

[事務局]

アルカディアの会は県の指定も受けて活動されていますので、フォーラムの趣旨からすると、一つの考え方として入っていただく方向でいいかと思います。

[議長]

里山保全と言っていますが、やっぱりいろいろな価値観があります。アルカディアの会のような里山保護、I委員の報告にあったような生物多様性、農業を通じて感じる生きがい、地元で農業を営んでいる人たちの感覚など、いろいろな価値観を持っている人が関係してきます。まちづくりの仕組みは会議で考えることはできますが、まずは、そういう活動をしている人たちにどんな人がいるのか、まちづくりの仕組みの中にどのように位置付けることができるのか、まちづくりへの主体的な人や団体への契機として、そういう人たちの掘り起こしをしてみたいと思っています。

今後、里山として実際に管理していくこととなった場合、地元の人やボランティア、NPOなどの協力が必要になってくる可能性があります。

[A委員]

フォーラムの参加人数や参集範囲についてはどうなっていますか。

[事務局]

規模的には、数百人ということは想定していません。小学校の跡地利用を検討する中で、多様な考え方をお聞きする場だと考えていました。それが里山であったり飯高檀林であったりという委員長のイメージもお聞きしていましたが、福祉フォーラムという地元住民で組織された団体でも、跡地利用については検討されています。

さらに、アルカディアの会やアースカラーという実際に活動されている団体もありますので、そういう人たちを中心にフォーラムの開催を考えていました。それを市外の団体にも広げてしまうと、今度は広がりすぎてしまって、もと

もとのフォーラムの趣旨に反する気がしています。フォーラムの位置づけをしっかりと決めれば、おのずと参加の範囲なども決まってくると思います。

[議長]

最初の頃の議論で、E委員から「NPOはどうやってつくるのですか」という質問があったと思います。

NPOが実際に日本で成立したのは、自・社・さきがけ3党の連立政権の成立が大きいです。自民党で一番熱心だったのは加藤紘一氏で、加藤氏の場合は福祉団体や町内会的なものを想定していたと思います。ニューレフトからはピースボードなどをやっていた辻本清美氏で、環境問題からアプローチしていたのがNPO関連でさきがけの座長をしていた堂本暁子氏です。NPO法が成立されるまでにはいろいろな経緯があり、多様な考え方が入ってきています。実際にできているNPOを見ると、行政の下請けみたいになっているところもありますし、自立した新しい活動を始める団体もありますが、NPOは市民セクター側として一つの主流であることは間違いありません。私の勤務している財団も公益財団法人への申請を内閣府へ行っていますが、内閣府によれば公益法人も市民セクター側に位置付けられています。

市民病院の意見書には書きませんでしたでしたが、公益法人制度の改革と同時期に、病院の法人改革も出てきています。

[事務局]

社会医療法人ですね。旭中央病院がかつてそれを目指していました。

[議長]

独立行政法人ではないのですか。

[事務局]

独立行政法人ではなく、社会医療法人を目指して一時期勉強会をやっていましたが、反対にあってできませんでした。

[議長]

NPOは現在の社会の潮流ですが、そういう市民セクターとどういう関係を持つか、いわゆる市民協働とも関わってくる問題なので、里山を中心に関わってみようと思い、こういうフォーラムの企画を提案しました。その際、先ほども言いましたようにNPOには様々な潮流があるので、こちら側が懐を深く、広くもって、いろいろな人たちとの協働を考えていかなければなりません。

今後、細かい内容については事務局と詰めていきたいと思います。先ほどのマ

スタープランの話ではないですが、里山と檀林を絡めた一つのゾーンとしてとらえて、考えていきたいと思います。技術的な仕組みづくりについては、F委員にご相談させていただき、準備していきたいと思います。I委員から提案のあった資料館なども、視野に入れた方がいいかもしれません。

それと市にお聞きしたいのは、市では文化財の取扱いはどうなっていますか。

[事務局]

常設展示して、博物館的にやれるほどのものはないと思いますが、丸木舟などの出土品については、管理が十分でない状況にあります。そういうものを整理して、展示していくという意味ではいいのかもしれませんが、それが外からの集客につながるような資料展示になるかどうかは難しいと思います。文化財指定されているものは、寺社であったり個人のものであったり、その場所にあつてこそその文化財なので、絵に描いたような資料館というのは厳しい気がします。

[議長]

事務局で言っている資料の「し」は、資本主義の「資」、「すけ」資料ですよ。つまり「もの」です。しかし、文献の場合には「史料」、「ふみ」史料という字になります。行政文書、公文書などもそれにあたりますが、行政文書は年数で廃棄でしょうか。

[事務局]

永年保存もありますが、基本的には年数で廃棄しています。委員長がイメージされているような文書は、10～20年で廃棄していると思います。

[議長]

もし文書館があればアーキビスト(公文書館などで調査研究にあたる専門職員)がいて、公文書の収集や分類、保管を行っています。公文書は、行政として使う価値観と、文化財・歴史的史料として使う価値観とは、やっぱり違います。国の機関で、竹橋にある公文書館ではそれをやっています。地方にも広げていこうということをして十数年前からやっているのですが、こういうことも含めて文化財というものを考えた方がいいと思います。

もう一つは、今、I委員の頭の中にはトウキョウサンショウウオがいて、それを集めたり標本化したりして、この地域の自然環境を見ていくというようなことを考えていると思います。

文書管理に関係しますが、八日市場市史と野栄町史は、県内で一番薄いものだと思います。県史をまとめているときに旧八日市場市役所に行きましたが、ほと

んど文書は残されていませんでした。野栄町史は、作るときに個人から集めた史料がいっぱいありましたが、それを個人に返してしまったのです。町制施行 40 周年のときに、『いま、野栄をふり返る』の執筆を頼まれ史料をもう一度集めたのですが、やっぱりなくなっているものもありました。こういうものは一度集めたら、きちんと保管しておいた方がいいと思います。こういう文書は、一度なくなってしまったら二度と手に入れることはできません。旭では、耐火式倉庫などで保管したりしています。匝瑳市でも文化財的な資料、史料、自然科学的な資料の保存などを考えた方がいいのではないのでしょうか。

[事務局]

そういう発想がまずないのだと思います。史料館をつくるという検討も今までしていませんので、それを小学校跡地にということであれば、収集するところから計画を立てていくことになると思います。

[議長]

そういう意味では、I 委員の資料館構想も日の目を見る機会があるのかもしれませんが。

[事務局]

地元飯高地区の住民からも、資料館にしてはどうかという意見が一部から出ています。

[A 委員]

飯高の場合は、檀林を中心にそういうものを展示する場所がありませんので、資料館にしてほしいという意見は出ています。

[事務局]

飯高に限らず、旧小学校施設が民間企業に売却されて、その多くが失敗に終わっているということを知っているのだから、それだけは避けたいという考えがあるのだと思います。その対極にある利用方法については、おそらく関心を持たれているのではないのでしょうか。

[議長]

問題は、資料館とかを造るときに、人を呼ぶことでお金を落としてもらって、活性化につなげるというような発想はもうやめた方がいいですね。

[A 委員]

旧飯高小学校を考えた場合、1、2 階は機能的に使い、3 階はやっぱり資料館的な展示スペースとして使った方がいいのではないかと考えています。里山にし

でも農業にしても、体験事業をおこしながら、一方で資料館的なスペースも必要だと思えます。今、各分野でいろいろやっていることを、今度は学校を基盤にして展開していってもらいたいという思いはあります。

[議長]

そろそろ時間も迫ってきていますが、事務局の方で何かありますか。

[事務局]

里山・檀林フォーラムについては、資料として案を出させていただきましたが、日程などについてはいかがですか。案のとおり進めてもよろしいでしょうか。

[議長]

目的や構成などについては、私の方でまた考えてみます。F委員やH委員とも相談しながら、最終的に私と事務局で詰めていきたいと思えます。F委員の大学では講義が始まりますよね。

[F委員]

この日程の周辺ですと講義があります。今年は節電対策の一環として、休日に授業を行って、平日が休みになります。

[事務局]

日程は9月18日(日)となっていますが、皆さんのご都合は大丈夫でしょうか。方向性や日程など、柱となる部分についてのご了解をいただければ、あとは委員長がおっしゃっているとおり、細かい部分についてはあとから詰めていくことも可能だと思えます。

[議長]

私は大丈夫ですが、A委員、地元の方は大丈夫でしょうか。

[事務局]

報告を予定している飯高檀林コンサート実行委員会やI委員については、この日程で内諾をいただいております。コーディネーターとして予定している委員長も都合が良いということですので、役のある人たちについては日程の調整がついています。

会場については、ランチルームということで、収容人数が大体80人くらいだと思います。

[議長]

わかりました。では、これで進めていきましょう。

(3) その他

[事務局]

今後の運営というところで、今お話のあった里山・檀林フォーラムについては9月18日(日)を予定しています。最終的には決定した事項を、委員の皆さんにお知らせいたします。

今回の会議については、フォーラム終了後の9月29日(木)19時から八日市場ドーム選手控室での日程を考えています。

あともう一点、これはお願いなのですが、市では総合計画中期基本計画の策定に向けて作業を進めております。現在、市役所内での修正作業を行っている段階で、これが終了次第、戦略会議の委員さんから意見をいただきたいと思っています。修正作業の終了が8月末ころになりますので、冊子を皆さんにお配りし、9月中旬ぐらいを目安にご意見をお寄せいただきたいと思っております。出された意見について集約したものを、今回の戦略会議に資料として出させていただき、戦略会議からの意見として提出してよいかどうかについて、ご協議いただきたいと思っております。決定されたものについては、計画への反映を検討させていただくということで考えております。

[議長]

これは総合計画という大きな枠組みの中での中期という位置づけですか。

[事務局]

基本構想が12年間という期間になります。その下に4年ごとに前期・中期・後期という基本計画を作ることになっていますので、現在、前期が終了して中期に入る段階です。

一定の手続きを踏んでおりまして、これから議会やパブリックコメントを通してご意見をいただきます。戦略会議でも今までいろいろなご意見をいただいておりますので、そういった視点で見させていただき、ご指摘事項があればいただきたいと思います。いただいたご意見は、庁内組織の中に諮っていきたいと考えています。

[議長]

作成にあたり、コンサルティング会社に依頼はしていますか。

[事務局]

コンサルにサポートは依頼していますが、基本的には庁内組織である策定委員

会や、その下の専門部会という組織で検討しています。コンサルには、計画全体に関わる整合性のチェックなど、サポートはさせていただいております。

[議長]

わかりました。本日の会議録の確認についてはどなたになりますか。

[事務局]

今回は鎌田委員と永野委員の2人でよろしいですか。

[委員]

はい。

[渡辺新議長]

それでは2人に確認をお願いします。本日はこれで会議終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

4 閉 会